

はんそでわすれて

埼玉県 戸塚南小学校 1年 大熊 煌誠

「できるよ、なんかいもおなじこといわないで！」

ぼくは、なんかいもおなじことをいうおかあさんにおこっていた。スイミングのじかんなのに、よういをしていなかったからだ。わすれていたわけじゃなくて、いまやろうとしていたのに、くちだしされていらいらしてしまった。

あわててにもつをいれて、みずぎをきて、くるまにのった。かえるときにきるはんそでをいれわすれたけど、いったらおこられるから、ないしょにしておこう。

プールについて、おかあさんはいもうとといっしょにかえっていった。いもうとがおひるねするじかんだから。

ぼくは、いつもとおなじようにおよいで、ひとりできがえた。そうだ、はんそでがないんだ。どうしよう、はだかじゃいやだな。からだをふいたタオルをきることにした。タオルはぬれていてすこしさむくなった。おかあさんはまだかな、だんだんともだちがかえっていく。もうほとんどいない。

しんぱいしてくれたともだちのおかあさんが、こえをかけてくれた。うれしかった。うけつけの先生も、はなしかけてくれた。

おかあさんおそいな。ぼくがあんなこといったから、おこってむかえにきてくれないのかな。だんだんさみしくなってきた。ほんとうは、じぶんがいけないってわかっていたけど、つい、いってしまったんだ。

下をむいていたら、また先生がはなしかけてくれた。

そのとき、ぼくはきがついた。ぼくのマわりには、しんせつな人がたくさんいるな。しんせつって、あいてがこうしてくれたらうれしいだろうな、というのをすることかな？むずかしいな。

そんなことをかんがえていたら、やっとおかあさんがむかえにきた。先生やともだちのおかあさんたちに、たくさんありがどうをいっている。みんなにこにこわらっていた。

くるまのなかで、おかあさんはいった。

「しんせつでやさしい人がたくさんいてうれしいね。おそくなってごめんね。」

「もういいよ。ぼくもごめんね。」

おかあさんは、わらっていた。ぼくはまだ、しんせつにしてもらうばかりだ。

「ぼくができるしんせつってあるのかな？」

おかあさんにきいた。

「いっぱいしてくれてるよ。できることも、もっとあるよ。」

といった。

「ふーん。」

おひるねをしてきげんのいいいもうとが、にこにこわらっている。ぼくもおなじようにわらった。